

# アニメーション作品における人物の性格と言葉遣いの結びつきについて

## —伝達態度を表す終助詞に注目して—

深田芽生(明治大学大学院生)

### 1. はじめに

従来の役割語研究において、人物の性格は副次的に捉えられている要素であった。しかし、性格を人物属性の1つとして注目した西田(2009)や富樫(2011)をはじめとする一連の研究の後、近年では性格に起因する言葉遣いは、人物の特徴を表す表現であるという点では社会的属性に起因する言葉遣いと共通しているものの、その結びつき方は以て非なるものであるという見方が示されるようになってきている。中でも性格とそれに起因する言葉遣いは相互に想起しあうことができず、固定的には結びついていないという特徴を持っており、その点で社会的属性に起因する言葉遣いとは大きく異なる。これまでの研究では人物の属性と言葉遣いはある程度固定的なものとして捉えられていたため、用例をあげる形での調査が多かったが、このような言葉遣いの傾向を捉えるためには、量的な調査が必要になるといえる。さらに、西田や富樫らの研究では「ツンデレ」のような特定の性格に注目されていたが、これらの性格は一般的でないということが指摘されており(金水 2016)、誰にでも分かりやすいより基本的な性格を複数取り上げることも必要である。

そこで本発表では伝達態度を表す終助詞を対象に、複数の性格類型と各終助詞の対応関係を明らかにすること、そしてなぜ特定の終助詞が使用されやすくなっているのか、その理由をその終助詞が持つ基本的な性質や機能の面から考察することを目的に量的な調査及び分析を行った。これらの調査を行うことで、より網羅的に性格と言葉遣いの調査することが可能になると考えられる。

### 2. 研究方法

研究対象は、国民的アニメーションとされる「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」「名探偵コナン」「ポケットモンスター」「ONEPIECE」の5シリーズの劇場版作品と、その主要登場人物である。対象のシリーズは田中(2014)を参考に、アニメシリーズの累計放映年数やメディアミックスの有無などの基準を設け、選出した。さらに劇場版作品の中から、全ての主要登場人物の発話が一用量確認できることを基準に各シリーズから5作品ずつ選出し、計25作品を分析対象とした。

また、調査は①各登場人物の性格の判定と、②発話に見られる言葉遣いの分析という2段階の手順で行った。人物の性格の判定にあたっては、作者や出版社が公開している人物紹介文を用いた。『分類語彙表 増補改訂版』や村上(2002)を用いて性格表現用語を抽出した後、類語表現をまとめていくつかの性格類型とした。今回は深田 2022 で調査した性格類型のうち、よりステレオタイプ性の高い言葉遣いを見るべく、2名以上に共通している性格類型とその保持者を主な調査対象とした。対象となっているのは表1に記載の14の性格類型と保持者28名である。

言葉遣いの分析では、調査対象25作品の日本語字幕スクリプトを用いた。人物の属性と言葉遣いの結びつきに関する先行研究では、人物の属性は人称詞や感動詞、文末表現に表れるとされている(真田 2006 など)が、終助詞は文末表現において特に調査されることの多い言葉遣いである。今回はこのうち、特に伝達態度のモダリティに含まれる終助詞を対象として調査を行った。伝達態度のモダリティは、聞き手に対して話者がどのように伝えようとしているかという文の述べ方を担う(日本語記述文法研究会編 2003)機能を持つ。そのため、本研究のように同じ内容を言う際の表現の異なり方を調査するには適していると考えられる。これらの対象作品の発話から終助詞を抽出し、性格類型別に集計することで、性格毎に傾向的に用いられやすい言葉遣いを確認した。対象としたのは日本語記述文法研究会編(2003)記載の伝達の終助詞、確認・詠嘆の終助詞、終助詞相当形式と、それらの複合形式17個である。なお、日本語記述文法研究会(2003)で「よね」は確認・詠嘆の終助詞として記載されているが、今回の調査範囲では「よね」同様複数の終助詞が合わさった形式が複数確認されたこ

1 本調査ではスクリプトの文境界の判別が難しいため、文末述語に付く文末用法か、文末述語以外の要素に付く間投用法かについては区別しないこととした。また、複数人での発話や疑問の終助詞、「のだ」の機能として使用される終助詞「の」については今回対象としていない。

とから、調査対象者の中で使用が見られた他の5つの形式とともに、全て複合形式として扱った。

伝達 : よ, ぞ, ぜ, さ, わ  
 確認・詠嘆 : ね(ねえ), な(なあ)  
 終助詞相当形式 : とも, もの(もん), っけ, っげば  
 終助詞複合形式 : もの(もん)ね(ねえ), よな(なあ), よね(ねえ), わね(ねえ), わよ, わよね(ね)

表1: 対象となる14個の性格類型とその保持者28名<sup>2</sup>

保持者数	性格類型	保持者
6人	頭の良い	出木杉(ドラえもん), ドラミ(ドラえもん), 風間くん(クレヨンしんちゃん), 円谷光彦(名探偵コナン), サンジ(ONEPIECE), ニコ・ロビン(ONEPIECE)
	女好き	野原しんのすけ(クレヨンしんちゃん), 野原ひろし(クレヨンしんちゃん), 毛利小五郎(名探偵コナン), タケシ(ポケットモンスター), サンジ(ONEPIECE), ブルック(ONEPIECE)
5人	優しい	のび太(ドラえもん), しずちゃん(ドラえもん), 出木杉(ドラえもん), パパ(ドラえもん), 毛利蘭(名探偵コナン)
	頼もしい	ジャイアン(ドラえもん), ドラミ(ドラえもん), ポーちゃん(クレヨンしんちゃん), モンキー・D・ルフィ(ONEPIECE), ロロノア・ゾロ(ONEPIECE)
4人	臆病	スネ夫(ドラえもん), マサオくん(クレヨンしんちゃん), 吉田歩美(名探偵コナン), ウソップ(ONEPIECE)
3人	明るい	ネネちゃん(クレヨンしんちゃん), ウソップ(ONEPIECE), ブルック(ONEPIECE)
	御調子者	鈴木園子(名探偵コナン), ウソップ(ONEPIECE), ブルック(ONEPIECE)
	厳しい	ロロノア・ゾロ(ONEPIECE), サンジ(ONEPIECE), ニコ・ロビン(ONEPIECE)
	好奇心旺盛	吉田歩美(名探偵コナン), 鈴木園子(名探偵コナン), トニートニー・チョッパー(ONEPIECE)
	しっかりもの	しずちゃん(ドラえもん), ドラミ(ドラえもん), ナミ(ONEPIECE)
2人	義理堅い	ロロノア・ゾロ(ONEPIECE), フランキー(ONEPIECE)
	勇敢	ウソップ(ONEPIECE), トニートニー・チョッパー(ONEPIECE)
	紳士的	円谷光彦(名探偵コナン), ブルック(ONEPIECE)
	ナルシスト	スネ夫(ドラえもん), 風間くん(クレヨンしんちゃん)

### 3. 調査結果

#### 3.1 概観

表3は、調査対象28名の終助詞使用数を伝達、確認・詠嘆、終助詞相当形式、複合形式の4つの機能ごとにまとめて示したものである。機能ごとに見ると、伝達と確認・詠嘆の終助詞は終助詞の使用が見られる人物においては全員に使用が見られるのに対し、終助詞相当形式は使用する話者とそうでない話者がいることがわかる。このことから、終助詞には終助詞相当形式のように、その使用の有無自体に特徴があり、それぞれの人物類型と結びつくものと、伝達、確認・詠嘆の終助詞のように、同じ機能を持った終助詞の選択に特徴が表れるものの2種類があると考えられる。今回は、特に「いいよ」「いいぜ」のように、機能・文脈上代替が可能な場合の、性格類型による終助詞の使用差について注目した。

表2: 登場人物28名の終助詞使用数

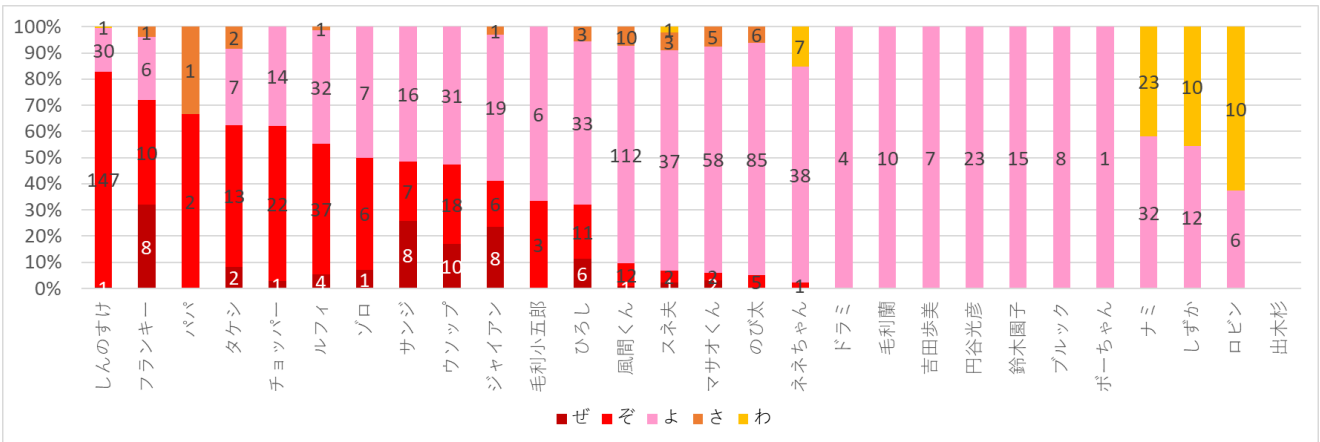
	ドラえもん							クレヨンしんちゃん					ポケットモンスター	名探偵コナン					ONEPIECE							総計			
	のび太	しずか	ジャイアン	スネ夫	出木杉	ドラミ	パパ	しんのすけ	ひろし	風間くん	ネネちゃん	マサオくん	ボーちゃん	タケシ	毛利蘭	毛利小五郎	吉田歩美	円谷光彦	鈴木園子	ルフィ	ゾロ	ナミ	ウソップ	サンジ	チョッパー		ロビン	フランキー	ブルック
伝達	96	22	34	44	0	4	3	179	53	135	46	67	1	24	10	9	7	23	15	74	14	55	59	31	37	16	25	81083	
確認・詠嘆	27	15	10	12	0	5	4	55	23	28	23	21	7	23	10	4	11	29	5	34	19	19	13	16	12	13	10	14	448
終助詞相当形式	6	0	0	0	0	0	0	10	1	1	3	6	1	1	4	0	1	0	1	2	0	3	0	0	1	1	0	1	42
複合形式	4	2	1	2	0	1	0	5	4	4	23	8	0	0	3	0	1	3	0	2	0	19	2	0	1	7	0	2	93
総計	133	39	45	58	0	10	7	249	81	168	95	102	9	48	27	13	20	55	21	112	33	96	74	47	51	37	35	25	1666

<sup>2</sup> 『ドラえもん』ジャイアンの「頼もしい」やスネ夫の「臆病」はアニメシリーズの人物紹介文とは異なるが、今回は劇場版作品を対象としていることから、劇場版パンフレット記載の人物紹介文についても考慮した。

### 3.2 伝達の終助詞

以下の図1は、調査対象28名の伝達の終助詞「よ」、「ぞ」、「ぜ」、「さ」、「わ」の使用率を100%積み上げ縦棒グラフで示したものである。各人物は、左から「ぜ」及び「ぞ」の使用率が高い順に並んでいる。

図1：登場人物28名の伝達の終助詞「よ」、「ぞ」、「ぜ」、「さ」、「わ」の使用数と割合（100%積み上げ縦棒グラフ）



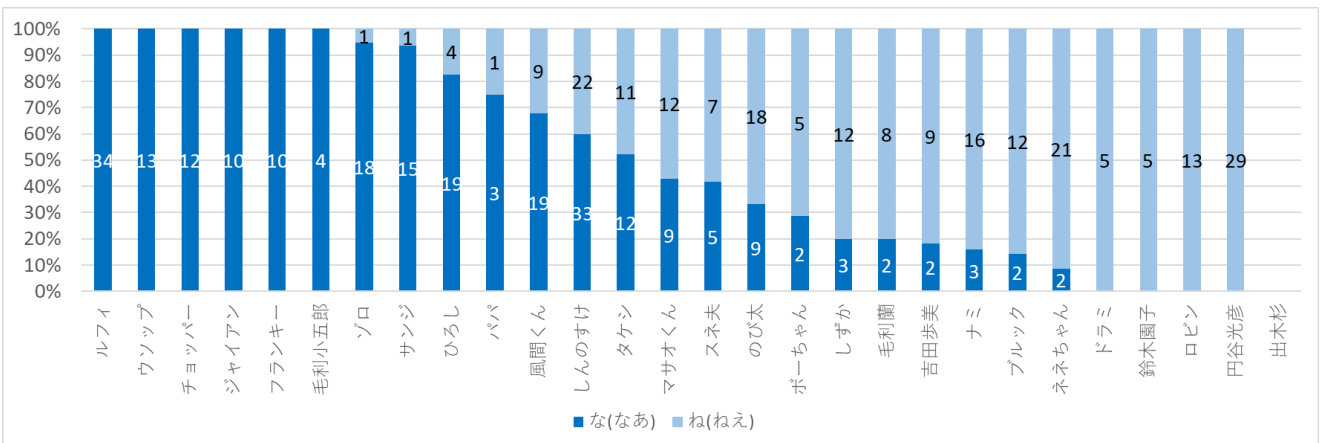
まず、前項の終助詞相当形式同様使用者が限定されており、特有の機能・性質を持つ「さ」、「わ」について、それぞれの性格類型との関連を見る。「さ」は、10名の人物に使用が見られた。そのうち4名は1回のみの発話だったため、複数回使用が見られた6名を見たところ、2名以上に共通する性格類型は「ナルシスト」と「臆病」であった。「さ」は聞き手に当然性を伝えるという対話的性質を強くもっているため、自分に自信がありそれを誇示したい「ナルシスト」と結びつきやすいと考えられる。また、聞き手に言い聞かせて落ち着かせようとしたり、開き直り、投げやりのニュアンスを含んだ用法は「臆病」に特徴的に見られたが、これは衝突を避けようとする姿勢が終助詞に表れたものだと考えられる。一方、「わ」は5名の使用人物がいるものの、単独形式では性格と言葉遣いと間に特徴的な結びつきは確認できなかった。

次に教示用法として用いられることが多く、代替可能な場面が多い終助詞「ぜ」、「ぞ」、「よ」について見る。それぞれ、「ぜ」は一方的な情報提示、「ぞ」は相手の行動を変えようとする強い教示、「よ」は強制力の弱い情報提示という機能の違いがある。特に、大半の人物に「よ」の使用が見られる中で、「ぜ」「ぞ」を特徴的に使用する人物に見られた性格類型は、「女好き」「頼もしい」「厳しい」「義理堅い」などの性格類型であった。したがって、自分の考えに対して自信を持ち、精神的な強さと関わる性格類型は、それを相手に強く示すことのできる「ぜ」や「ぞ」と結びつきやすいといえる。

### 3.3 確認・詠嘆の終助詞

図2には、確認・詠嘆の終助詞「ね（ねえ）」、「な（なあ）」の使用率を示した。両者は独自の用法も持つものの、代替可能な場面も多い終助詞である。

図2：登場人物28名の確認・詠嘆の終助詞「ね（ねえ）」、「な（なあ）」の使用数と割合（100%積み上げ縦棒グラフ）



それぞれの使用数が7割以上の人物を「ね優位型」「な優位型」としてみると、「な」優位型の人物には、「頼もしい」、「厳しい」、「義理堅い」といった性格類型が、「ね」優位型の人物には「しっかりもの」という性格類型が複数名に確認された。「ね(ねえ)」、「な(なあ)」の異同について、特に対話的な性質を持った用法においては、これまで個別の特徴はあまり見られず「な(なあ)」は主に男性が用いるものとされていた。しかし本調査から、確認・詠嘆の終助詞「ね(ねえ)」、「な(なあ)」は性差だけでなく、性格類型の面でもその使用に傾向があることが明らかになった。

### 3.4 終助詞相当形式と終助詞複合形式

終助詞相当形式には伝達や確認・詠嘆の終助詞ほど性格類型との対応関係は確認できなかったが、「もの(もん)」、「ってば」の2つの形式で「臆病」などの一部の性格類型と結びつきが見られた。両者は当然のニュアンスを含む終助詞相当形式だが、特に精神的な未熟さと関連する性格類型に特徴的に表れやすいと考えられる。

また終助詞複合形式では、終助詞「わ」と接続する複合形式が多くあった。今回伝達の終助詞としての単独形式では特徴が見られなかったものの、今後複合形式や接続の面での性質を紐解くことによって、性格類型との対応関係が見られる可能性が示唆された。

## 4. 調査結果のまとめと今後の課題

国民的アニメ5シリーズの主要登場人物について、その性格と発話を対象に量的な調査を行った結果、①終助詞には終助詞相当形式のように、その使用の有無自体に特徴がありそれぞれの人物類型と結びつくものと、伝達、確認・詠嘆の終助詞のように、同じ機能を持った終助詞の選択に特徴が表れるものの2種類があること、②聞き手への当然性を伝えたり、言い聞かせる対話的性質を持つ終助詞「さ」は、自分に自信がありそれを誇示したい「ナルシスト」、相手との衝突を避けようとする「臆病」にそれぞれ特徴的に見られること、③強い情報提示や教示を表す「ぜ」や「ぞ」は自分の考えに対して自信を持ち、精神的な強さと関わる性格類型と結びつきやすいこと、④確認・詠嘆の終助詞「ね(ねえ)」、「な(なあ)」は性差だけでなく、性格類型の面でもその使用に傾向があることの4点が明らかになった。これらの結果から、話し手が聞き手にどのように状況を伝えようとするかに関わる伝達態度を表す終助詞は、その基本的な性質や機能によって、複数の性格類型においてその性格を特徴づけるために使用されているといえる。

本発表では各終助詞の機能を3つに大別したが、本来終助詞の持つ機能はさらに細かく分類され、代替の可否もそれぞれ異なる。さらに、本稿では量的な調査の結果について主に記述してきたが、最後にも少し触れたように、より詳細に紐解いてくためには、やはり接続の面での分析も必要不可欠である。今後はこのような観点からの分析も加えつつ、調査を進めていきたい。

### 参考文献

- 深田芽生(2022)「役割語研究の視点から見た人物の性格と言葉づかい -アニメシリーズの人物紹介文と登場人物の発話の分析-」国際日本学研究論集 15 1-20, 明治大学大学院
- 金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏(2016)「役割語とキャラクター言語」金水敏(編)『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015 報告論集』pp.14-31, 私家版
- 国立国語研究所(2004)『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書
- 村上亘寛(2002)「基本的な性格表現用語の収集」性格心理学研究 11(1), 35-49, 2002
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002)『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 西田隆政(2010)「「属性表現」をめぐって-ツンデレ表現と役割語との相違点を中心に-」甲南女子大学研究紀要文学・文化編 (46), 1-11, 2009
- 真田信治(2006)『社会言語学の展望』くろしお出版
- 田中ゆかり(2014)『ドラマと方言の新しい関係-『カーネーション』から『八重の桜』,そして『あまちゃん』へ-』笠間出版
- 富樫純一(2021)「役割語の先へ-役割語的表現への広がり-」日本語学 40(1), 26-36, 2021 明治書院
- 「Weblio 類語辞典」 <https://thesaurus.weblio.jp/>